

武神館伝書



第十号



平成八年三月十五日発行

「現代武道に一筆参らせ候」を書いて、もう何年になるでしょうか？ 高松先生が他界されて今年の四月二日で二十五回忌になります!! 人生は一瞬です。この一瞬を一駿、駿馬の尻尾につかまり虫となって修業した日々が陽光の射す詞韻波羅密大光明の妙奇なりと遊々自適に生きている感謝多々の日を大切にしながら、私の振り向いた時の心の映像を紹介しましょう。

「現代武道に一筆参らせ候」

初見良昭 著

(教育広報より)

現代、武道を修業してられる方は、一概に自分の修業しておる武道を真実のものとしておられます。この武道観に対し、私は日本古来の武道を修業した者として、武道が世界的になった今日、正しい武道観をもって戴きたいと強く指導しております。

過日、現代武道家の、高段者の集まりの折、皆さんは、毎日、捨身の稽古をなさっておりますかと問いましたところ、一様に、捨身の稽古をしております、と即答がありました。そこで私は、では何故、剣道においては、怪我のせんように、竹刀を振るい、防具をつけて稽古をし試合をするのですか、柔道もしかり、畳なんて柔らかいものを敷き、怪我のせんようなルールを作つてまで、稽古をし試合をするのですか、これが捨身の稽古ですか、こんなことも気がつかんで、下手な稽古をしていると、実戦の場合は殺されてしまいますよー

このようなことを、実戦を要求される多方面の方等には話しております。

半棒術の指導中、「相手に、棒で完全に腕を捕られた時、どんな技で逃げたらよいですか」との質問がありました。そこで私は、腕なんか折られてもよいではないですか、腕を折られてもよいという気迫があれば、その時相手に隙が出来るものです。この時捕らえればよいのですーと答えました。実戦では、技の数ではありません。現代の武道家は、何故か技を追いすぎ、気迫という大事なことを忘れ、研究家のような態度に止まっているのには困りものです。剣の使い方においても、そうです。太刀先三寸で切る、そこが一番切るポイントと思っておりますが、実戦では、敵の戦闘力を奪うことが第一の目的です。人間真剣勝負の折は、強弱を考えるより、五分五分の心というなら、太刀先五分の当たりが、勝負を決めるのです。この五分の切先が神経血管眼にでも当たれば極まってしまうのです。このような真理を知らないで、居合の先生のように巻藁を何本見事に切つても、これは素人が薪割りをするに等しいのです。空手の試し割りも同じことです。剣は引いて切るより、実戦においては、押し切りの方が利があります。押して相手を後方に倒すように切らな

かったら、気力のある人には、前のめりになりながらも切られてしまうからです。

昔から、武芸者が坊主の話を聞いて伝書を作ったり、悟る話がありますが、名人は、そんな坊主の口先や、考え方などかりずに、己の死生観の中から、自然に神心要の悟りを会得したのです。太平な世になると剣禅一如などという風潮が強くなりましたが、風狂一休の時代、禅の墮落ということもあったことを知ることです。武芸の修業をしたことのない坊主の言うことをかりて伝書を美化し、また現代、武芸を一つも修業したことのないペン豪作家の表現が、武芸の姿であり、心というなら、これは大変な間違いです。私は剣豪作家と対談の折、その作家が武芸者のような態度で、武風論の間違いを平気で強調する時、「貴方は、誇大妄想狂に陥っていますよ」と一笑しております。

この頃、〇〇道という字を後尾につけて、己の行為は立派なものだと、自己満足している、ナルシスト武芸者も多すぎます。道の悟りは長く、生涯極まりないと思っている人はよい方ですが一。古来の剣法、忍法は、法の字を後尾につけた、瞬間々々の死生観の中で悟る心意気が秘められております。法とは悟りともいうからです。現代のマンネリ化した武道観を反省して、正しい武道観を悟るべき時期です。

教育広報「現代武道に一筆参らせ候」への綿谷先生のお返事。



郵便番号は
ハッキリと

鎌倉市大町
五-三-十四
綿谷 啓

郵便はがき

ス ク 8 - □ □

千葉県
野田市 野田六三六
初見良昭様

△この封筒は、木下先生の返事として、
野田市の郵便局に投函して頂きたい。
野田市の郵便局に投函して頂きたい。
野田市の郵便局に投函して頂きたい。
野田市の郵便局に投函して頂きたい。

拝啓 猛者の折柄は勇健のほと夢加たします、教育
広報上の貴文の主目、主たる聲を感ずるは、私共は
承知のこゝと武技には全然アトサイカシとあります、
いゝところの現在の武道家の言動には、ホトホトあき
れております。長らく古武道の伝書もよんで来ましたが、
なるほど理論は立派でも、一般的にいつて仙道家（老干の流
は神道家）の口まねにすぎず、殊に現在、剣禅一致を
は傳傳の大毒書去る以外に、いゝさしに禅坐に坐つた人が
あるのひしよりの。理論をいへばマンネリ不ふにすゑなつと
思ひます。私はアトサイカシと云つてゐるは、満足に免状を
つた流儀をいふのひ、習つた武術が全然をいふけなく、小
字生時代は戸田流・天神大流流の千解（護身だけ）、中学では
無形流高橋進太郎先生にっさ（手合せ、起してはかり）を
て専ら（前）舟越義珍氏の守之千公解が、大正十五年（か）

武芸流派大事典をお書きになった綿谷雪先生は戯曲作家でもあり、戯曲、特に西鶴の研究家としても有名な眞山青果先生とは師弟の関係でもありました。私も演出家としての勉強をしていた時代もあり、綿谷先生とは武道関係とは限らず馬があい、俗界についてもよく語りあったものです。そろそろ本当の武道を知る上で、私と綿谷先生との一枚の葉書を通して真実を味わっていただきましょう。私が教育広報に武道について書きましたところ、早速綿谷先生からお返事をいただきました。

『拝啓、猛暑の折柄御勇健のほど慶賀します。教育広報上の貴文の主旨、まったく賛成であります。私は御承知のごとく武技には全然アウトサイダーであります、いうところの現在の武道家の言動にはホトホトあきれております。長らく古武道の伝書を読んで来ましたが、なるほど理論は立派でも、一般的にいつて仏教家（若干の流は神道家）の口まねにすぎず、殊に現在、剣禅一致などは僧侶の大森曹玄氏以外に實際禅堂に坐った人があるでしょうか。理論だけはマンネリズムにすぎないと思います。私はアウトサイダーといっているのは満身に免状をもらった流儀がないからというので、習った武術が全然ないわけではなく、小学生時代に戸田流、天神真揚流の手解（護身だけ）、中学では無外流高橋超太郎先生につき（手合せ、逃げてばかりいた）、東京で関東大震災（一九二三年九月一日）前（舟越義珍氏の空手公開が大正十五年（一九二六年）だから）、その公開前にオペラの西本朝春の稽古場へダンスを習いに行く道で、茗何谷にあった沖縄県人会の寮の学生に空手をホンの少し習いました。しかし恥ずかしいから誰にも言いません。これが初めての告白です。柳剛流も少しだけ。』

以上のようなお便りでした。ここで綿谷雪（雪は雪のように美しいということで、きよしと読みます）先生は、明治三十六年（一九〇三年）和歌山で生まれました。綿谷先生の家系は代々紀州藩吉川流鉄砲の宗家で、吉川源五兵衛の嫡孫で実父の吉川元之助は淡路島の洲本市で初めてキリスト教の教会を開いた人で、父の死後淡路島の里子にやられました。淡路の人形芝居、文楽が幼き日のノスタルジアとして演劇に対する灯火となっていたのでしょう。母の再婚で少年時代は神戸の綿谷家で養われ成長し、早稲田大学に学びました。高松先生も神戸で育たれ、何かの縁があるのですね。綿谷先生は語学にも堪能で英、仏、グreek・ラテン、蒙古、インドネシアにも通じられていました。高松先生も英、仏、独、中国語を話されました。皆さんがここで綿谷先生の武芸流派大事典を見る前に、こちらの方が大切であるということ、いくつか述べておきましょう。まず、綿谷先生は語学力が強く、翻訳の仕事をやリ世界観があったということ。そして、歴史小説、史伝、研究書、戯曲集、江戸の地理武芸史観にも造詣が深かったということですね。綿谷先生は戸伏太兵というペンネームを使われていました。これは戦後のことですが、由比正雪、毒婦伝、日本武芸達人伝、武術奇人伝、洋唱史譚、剣豪、武芸風俗姿、etc。また、ここで師弟関係にあった眞山青果先生についても書いておこう。眞山青果（一八七八年～一九四八年）先生は大正・昭和前期の劇作家、小説家でイプセン風の社会劇を書き、新派劇の作者で、平将門や大石最後の一日、坂本竜馬、etcを書いておられます。綿谷先生は心然的に文楽と淡路人形座を書き、眞山青果全集十五巻の編集にもあたっています。青果の西鶴研究の助手活

動が江戸ルポルタージュの引き金ともなっているのでしょう。綿谷先生はいはく「僕は、考証癖を通り越して詮索病にかかっているんだね」と笑う。「武芸流派事典研究したけど、〇が多いね…」と。そこで、私が答えたことがあります。「〇は大事です。〇には真実があり、何でも〇からスタートですものね。」「うまいことをいうね、初見君」と笑われたことがあります。武芸流派大事典のあとがきに、「思えばこの武芸流派大事典もまた厚顔無恥の集積で、ただただ自分の才幹の未熟と言い逃れする以外に、私は途を知らないのです」と、しかし、この武芸流派大事典の出版の後も、先生のいう詮索病は続き、お亡くなりになるまで武芸帖なる小雑誌を出版して、武系を発表し続けられたのです。高松先生もよくいわれたことがあります。〇〇先生としておきますが、彼がある流派について誹謗した時「〇〇先生、あほやな。二年や三年の研究で、何いうてんね」と私に高松先生が教えて下さった、そのお便りを皆さんに紹介しておきましょう。

『某氏が唐手拳法に付いて仏教が中国に渡来したのは漢の武帝時代紀元前一〇〇年代である。其れに伴って印度の文化や拳法等が清国に渡来したことは想像に難くない。それから五百年後、梁の武帝の時に天山路の峻阻な山道を越え幾多の困難を排して達磨が印度から渡って支那に來た。其の後達磨が梁武帝に禪を解いたが入れられず、依って中州嵩山小林寺に留まって禪を講じたが、座禪のために運動不足となって筋肉が萎縮し精神まで萎縮して活気が無く（と言うことは達磨が子供の玩具の足が無い様な人になったように書いてある）、唐手の中で生まれたようにも書いてある結講です。

一寸一言申し上げたい漢の武帝時代より梁武帝の時代までは五百八十五年である。八十五年違ふと一寸事実が変わってくる。また事実、小林寺に於いて達磨が足が不自由となったものならば、梁武帝大通元年達磨は廣州において禪を広めておる古文がある。然れば梁武帝の天下は四十九年である。達磨が小林寺に禪を解き、易筋経を編み出したは永明九年頃だと古文にある。永元二年すなわち十年後達磨は小林寺を出て旅にある。某先生の言われる如くならば足の無い達磨が二十五年後大通元年廣州に禪を広めている。易筋経を作り羅漢十八手を作ったことは取るに足らないことと言うておる。

よくよく世論というものは少しの歴史をあさると歴史家の大家の如く言い、武道も三年か五年を練習すると天狗となりやすいが其の為に其の真実をかいているようである。

私は現代の文明といえども日本の歴史さえ其の真実を書けなかった時代がある為に我国の歴史さえ真実だとは言い得ない点がある武道も三年、五年で天狗となる之で良いのです。天狗がいつか己の武術に異なって進歩するのだけれど古代のことを捨てたり、けなしてはいけない。すなわち古代の幼智な枝が骨子となっているからである故、古代の幼智なところにまた価値があるから記録とすべきであるのでなかろうか。』

高松先生が他界される一年前、「今、日本には初見はんほど武道の出来る者はおへん」と語られたことがある。これは私の自己宣伝でも何んでもない。素直に先生の言われたことを私が想い浮かべているだけである。そして武風一貫、昭和四十七年四月二日に高松先生が亡くなられ、葬儀に私と妻の掬子、瀬能英夫、小林正光の四人が参列、それが復活の日であり、高松塚古墳の壁画が発見された年である。もう二十三年も経過したのですね。先

生の語られた一言一言がようやく私にもわかり始めました。そして高松先生、その晩年、武道の好き者に書き与えた尊い心、一人でも良い本当の武の道を歩いてくれと願って与えた伝書の数々、高松先生と一度もあつたことがなく稽古をいただいたことがない者が、高松先生に教えていただいたと自己顕示する〇なる者、私の現在にも言えるのです。私から代系をもらったという自己顕示の〇者がいるからです。綿谷雪先生は、雪よりも美しい、きよしこの夜の武芸流派大事典として真実の〇を残されたのです。真の武風は〇から生まれ成長して行くものです。武神館の諸子は、光り輝く透明なダイヤの心を持って欲しい、そして武風一貫して欲しい、これが私の願いなのです。

平成七年十月十二日 筆

宗家 寿宗

対談 戸隠流忍術の全貌

昭和三十九年（1964年）、武道日本と題する本の出版目的のため、森川哲郎さんという作家と対談をしました。当時の私は三十二歳、いまだ高松先生のもとで激しい修業の最中でした。従って、忍法に対する対談も必常に初歩的な狭義なものになっておりますが、皆さんにも忍術を“学ぶ”“知る”一段階とあって何回も読み返していただきたいと思います。出版された活字には、皆さんもおわかりと思いますが、間違いがあるものです。そこで、1995年現在、出版してから三十一年を経過した今日、皆さんのために活字に手を加えて紹介いたします。

「戸隠流忍術の全貌」より引用

いまに生きる忍者

忍びの者という映画があった。原作は村山知義氏、“アカハタ”に連載という異色の小説の映画化で、相当の好評を博した。

原作の文学的に優れていたこと、さらに監督山本薩夫、主演伊藤雄之介、市川雷蔵というベストスタッフであったせいもあるが、その中に多彩な忍者のあの手、この手が、次々とくり出されて、観客の特殊の注目をひいたためもあった。

あらゆる器具、手練の技が、次々と目を奪うように披露されたのである。その技術指導をしたのが、ほかならぬ初見氏であった。

初見氏は、戸隠流、（とがくれと読む）、三十四代であり、雲隠流忍術十四代でもある。

その他虎倒流骨法、玉虎流骨指術、神伝不動流打拳対術、高木楊心流柔術など、いまではほとんど残っていない特殊な武術の後継者でもある。

骨法といえば、武道史に特筆される小指で石を割り、人を殺すという空手以上に恐ろしい威力をもった武術といわれ江戸の初期紀州頼宣に仕えた佐々木五郎右衛門というのが、史上に伝えられているが、後は絶えてしまったかと一般に思われていたものである。

その後継者が生存しているというだけでも、武道研究家にとっては、驚異のことなのだ。

忍術はじめ六つの武術の後継者である昭和の剣人初見良昭氏は、いずれにしる現代得難い人物の一人にはちがいない。

年は、しかもわずかに三十二歳の青年。

若い昭和の忍術使いの全生活をここに探訪してみよう。

忍びの者と戸隠流

森川 “昭和の天才的忍者”という噂で、期待してきたのですが、あまり若いので、びっくりしました。その年令で、九つの武道の宗家をついでおられる。ちょっと普通人では、考えられないことですね、いったいつ頃から修行をはじめられたのですか？

初見 体術は、はじめて十七、八年目になりますか。忍術は、八、九年目です。もっともその前に空手などをやっていた、空手は八段をとりました。

森川 ほう？ やはり天性武道家の素質をそなえていたのですね。“忍びの者”は、原作もすぐれた特異な境地を開いたもので、実験的作品などといわれていましたが、映画もまた最近になく優秀だった。あの指導をなさったということで、初見さんに大変興味をもったのですが。

初見 そうですね。さすがにいい作品でしたね。山本監督も、スターの方たちも、いろいろと苦心していましたから.....。

森川 しかし、いままでの時代劇俳優もあまりやったことのない技術が、つぎつぎと出ていましたね。たとえば、歩き方や、梯子の登り方一つでも、いままでにない忍法らしいみごとな味を出していた。恐らく指導に苦心したと思いますが.....

初見 ええ、歩き方でも、いろいろ苦心しました。横にカニのように歩く方法がある。しかしそれをやらせると、伊藤雄之介さんですが、スタッフが、みな笑い出してしまうのです。スタッフが笑うぐらいだから、観客も笑うに違いないというので、前向きの歩き方だけにしぼったのです。

森川 雄之介の百地三太夫、雷蔵の石川五右衛門ともよく演じていましたが、ことに雄之介が、忍者の頭領の味を良く出していた。屋敷の構造、抜け穴や仕掛けだらけのもので、それを詳しく研究されて、みごとなで栄えでしたね。またつぎつぎと、一般の見たことのない器具がくりひろげられるので、その物珍しさで、あきずに最後まで、一気に見せられた.....。

初見 あの器具や、毒薬はみな下にありますよ。中から分銅の出ってくる杖、先は鍵になっていて、武器にもなれば、高い所にもよじ登れる。菱型のツバのような手裏剣、水平に投げれば突き刺さるのです。あれは、普通九枚ずつ携帯するのですが.....。火薬、毒薬、水中をくぐる時に使う竹筒。

森川 面白かったのは、天井に穴をあけて、下に寝ている信長の口めがけて、細紐をたらす。それに毒薬の汁をぬらして、信長の口にそそぎ込む。あの手は、いまでも悪い連中がまねれば、そのまま使える。しかし、すぐ発覚するでしょうがね。殺人の手口を教えるようなものだ。それからやはり天井から竹筒をつきだし、そこから出る煙で、下の者をみな眠らせてしまうなどという手も使っていましたね。

初見 下にはうようにした重い煙にして使うわけです。毒薬も、私の所でも作れます。しかし、発表するとそれこそ悪用されて大変ですから、いえません。

森川 そいつは怖い。手裏剣もでしたが、火を小さくにとって手裏剣のように次々と投げ

て、五右衛門が三太夫を追いつめるシーンは、凄いような息づまる迫力がありました。あんな技もできるのですね。それから、木から木へターザンもどきに、ロープをわたして渡る。その時に綱に金具のようなものをかけて、それにぶら下って渡っていましたが。

初見 ええ、それもここに 있습니다。綱にかける金具に車がついているのですね。それで滑って、あつというまに移動して、姿を消すのですよ。

森川 しかしあの映画の中で特に感動したのは忍者のきびしさですね。逃げられぬと知ると、みな顔を手裏剣でつぶしたり、匕首でそいだりして、果てている。自分を最後まで殺して、使命に殉ずる。自分を殺して、忍者として生きる、功利的になりすぎた現代人に爪の垢でもほしい境地ですよ。関節をみな外して、縄抜けするところがありました。あれは講談などでも、いままで盛んに紹介された口ですが、実際にできるのですか？

初見 できるのでしょうか。私のところでは教えていません。というのは、関節は外すと、習慣性になって、すぐ外れやすくなるからです。大事なところで、関節の外れるような身体にはなりませんから、ふだんはやらないようにしています。

鼠小僧と石川五右衛門

森川 忍術は、決して過去に生きたものでなく、現代でも活かして使えるものでしょう。現代でも、スパイという稼業は消滅したわけではない。それどころか、ますます盛んで、産業スパイなどという新手まで生まれている。

初見 その産業スパイなのですが、よく忍術と比べて、引きあいに出されます。しかし、忍術は、あのようにチャチなものではありません。商人ではありませんから、根本の精神から違います。忍術は、家を守り、共同社会を利するために使うのが本旨で、産業スパイなどは、他から盗み、自分だけを肥らせようという陋劣な精神から出ていますからね.....。もともと現代人は、盗みの精神は、実に旺盛になったようですが.....。たとえば、鼠小僧次郎吉、伝説のような大盗賊であったかどうかは知りませんが、たとえ忍びを用い、義賊とほめはやされていようと、結局は盗人にすぎない。

森川 そうでしょう。日本の生みだした武道というのは、技の先のことではなくみなその底に宗教があり、哲学があります。独特の美的なヒューマンイズムが横たわっているわけで。そのような卑しいものであってはならないのですね。

初見 そうなのです。私の先生、高松寿嗣先生という方ですが.....。花情竹性（かじょうちけい）ということをいわれる。忍術の極意に達するためには、花のようにやさしい心掛けと、竹のように素直な、真直ぐな心掛けがなくてはならないという意味です。これが、やはり日本の武道の心、武心なのです。そして、武心とは、とりもなおさず真心ということなのです。忍者にこの心がなければ、ただ忍術的形態を器用にこなす俗物というだけです。

森川 花情竹性ですが、これはまた美しい芸術的な言葉ですね。本当に日本の武道をいい

現わすには、ふさわしい言葉ですよ。高松先生は、いまおいくつですか？

初見 七十七歳です。先生は、修業をするのに、一年間岩窟にこもり、岩石に指を突き当て、指の鍛錬をし、生の玄米のまま数日を過し、次に五合の玄米を粥として一気に飲み干し、一里の道を駄足往復するという徹底的な修練をされた方です。これは、胃の拡張と、内臓の鍛錬をしたわけですね。次には、担桶を四荷肩に担いで走り、腰の安定を充分にする修練を積まれた。さらに氷の上を下駄で歩く。これは、体の重心をいつでも下においていないと倒れてしまいますので、この修業をつむと、自然に、体をどんな形においても、バランスのとれた構えになっていることができる。また、忍者が足音を立てずに歩ける鍛錬もこれから発するのです。

森川 すぐれた師をもたれたから、このような若き流行忍者が現れたというわけですか。(笑声) いま、先生はどちらに？

初見 奈良県橿原市に、住まれております。私は、免許を受けたのですが、いまでも毎週土曜夜行で行って、日曜練習して、また夜行で帰るという修行をつづけています。“忍びの者”の指導をするについても、すぐ先生のところへ、とんで行って、どういうふうに教えたらいいか、いろいろと教えていただいているわけです。

忍者の生活

森川 忍者の健康法は、どういう風になっていますか？ 忍びというのは、肉体的に大変苦痛な仕事ですから、よほど身体をきたえなければならぬと思うのですが？ 使命の遂行中に、病気にかかったり、風邪を引いたりしてはいけないわけですね。

初見 忍者でも、やはり人間です。いくら注意をしても、風邪にかかることもあります。ただ、忍者は、それを速やかになおす特別の術を修得していたのです。それが、いま考えると現在の医学の根本原則にびたりとかなっている。

たとえば、現在の医学の臨床の三大原則は、

- ① 原因の除去
- ② 精神と肉体の安静
- ③ 栄養

となっているでしょう。これをびたりと行なっているのです。まず①からいうと、風邪の時は、忍者は、すぐ水をがぶがぶ飲む。つぎに足だけを塩の温水につけて、頭を冷やして、寝てしまう。しかし、やはり忍者としては、風邪をたやすく引くような身体では駄目なので、毎日その鍛錬をかかさぬようにすることを忘れてはいけません。毎日の鍛錬というのは、夜寝る時に、枕元に、手拭と水、塩水を入れたピンに座壺、それにタオル、などをおきます。夜中でも眼がさめた時は、すぐその塩水でうがいをして、翌朝、眼がさめると、ガバツと勢いよく、跳ね起きて、裸になり、その場で冷水マッサージを充分に行ない、乾いたタオルで体を拭きます。それから服を着るのです。

②の身心の安静はどういうふうにしてつくるかということ、日頃から、寒暖に対し無理をしないように、心がけることにつきますね。そうかといって厚着はいけません。

適度にバランスをとることです。そのほか、日頃よく歩き、熟睡する習慣をつくる
ことが大事です。

③の栄養の場合を申し上げます。これは、忍者特有の栄養食があるのです。ま
ず、第一に豆腐ですね。豆腐は、一名魔法食ともいって、夏豆腐をぞんぶんにとっ
ていると、冬風邪を引かないともいわれています。つきは大豆ですね。それは最近
の学問によっても、りっぱに裏づけられています。東北大の近藤博士などは、「米
の大食は、短命のもと、大豆海草が主食に一番よい」といっています。

森川 そういうのは、自然の食物の中から、忍者が特に重用して、選んだものでしょうが、
忍者が、特に自分たちの食物として加工して用いたものはありませんか？

初見 ありますよ。面白いのは、忍びジュースともいうべきものがあります。これは、大
豆の油で、玄米をよくいため、そのいためた玄米を粥状に煮て、ふきんでこれを絞
り、切り立ての青竹の筒に入れておく。これを飲むのですね。これを腰につけて、
遠路でもかけ通すのですね。

森川 病気をなおすときの食事は？

初見 扁桃腺のはれた場合などは、梅干を飲んだり出したりしている中になおってしま
いますね。

森川 咽喉を酸でやくわけですね。医学の法にかなっていますが、そんなに簡単に固型物
を飲んだり出したりできるのですか？

初見 それができなければ、忍者になれませんよ。密書など敵に発見されそうな場合は飲
んでおいて、後で吐き出して届けるという芸当をやらなければいけません。

森川 この場合は、咽喉にとめておくわけでしょうが、修行で、誰でもできるようになる
のでしょうか？

初見 いえ、体質的にできる人と、できない人があります。

皇太子殿下に教える

森川 皇太子殿下に、忍術を教えられたそうですね。

初見 いやあ（笑声）教えるなどというものではありません。御進講ということですから講
演をして、実演をお目にかけてたわけですよ。

森川 どういうことを講演したのですか？

初見 いままでいったようなことが主なのですが、そのほかに忍者としての適性、資格と
いうようなものをお話ししました。

森川 それにはどのような条件があるのでしょうか。私など適性があるんじゃないかな（笑
声）聞かせて下さい。

初見 簡単なことなのですよ。私のところにも、最近リバイバル・ブームとでもいうので
しょうか？ 北海道あたりから、単身、「先生、弟子にして下さい。薪割でも、どん
な仕事でもやりますから、おいて下さい。頼みます」などと、昔の講談の文句のよ
うなことまでいって頼んでくる連中がある。（笑声）そんな時の断り文句はこれなん
です。「ぼくの家はガスなんだ。薪割りは必要がないのです。」（笑声）

それでもいなければ、到底帰らないのです。忍術などというのは、はでな、映画に出てくるような芸当ばかりしているわけではない。うんと地味なものです。その地味さに耐えきる人でなければならぬ。忍びですから。はでな、浮わつた映像ばかり追ってくる人たちにはたちまち幻滅を感じて、無理なんです。もしほんとは、薪割りを何年でもやって、耐えて行ける人なら、忍者になる適確性は充分といえるでしょう。つまり、薪割りでも、掃除でも、何年たってもやれる性格の人、素直さとしんの通った土性骨の持主、さっきあげた花情竹性を生れながらにもっている人物か、もっていない人物か、それを師匠が見分ける期間がいます。それが、すぐ武術を教えず、そうした地味な仕事ばかりを何年もやらさせた昔の物語りに出てくるわけですね。つまり忍者の適性試験が、数年かかったわけですよ。「運、鈍、根」とよくいわれますが、これはたしかに真理をうがった言葉で、武道の修行の神髄にぴったりかなっているのです。中には、こういうことをいって、入門を志願してくる人物がある。「忍術で、精神修養をしたい」そんな時には、「武術というのは、悪く解釈して見ると、人殺しの最高のテクニックを習おうという邪念からはじまっているのだから、精神修養をしたかったら、宗教にでも入りなさい」と追い帰す。事実そうしないと、生半可な気持の人には、危険なのです。中には強くなって、腕力を誇示したい、ヒーローぶりたいという浅薄な連中が、なだれこんでくるのですから……。ですから、私などの考えは、武道を習う者は、相手に勝つことが大事なのではない。自分自身の邪念に勝つということから出発しなくてはいけないと思っております。そして、武道家にとって、この自分自身との戦いは、一生涯のものなのです。

にせもの忍術横行す

森川 初見さんは、忍術は事実上何流何派ぐらい存在したとお考えですか？

初見 七十三流ぐらいと考えています。その主な流派をあげると、根岸流、雲隠派、白井流、神道流、白雲流、甲州流、紀州流、源流、現実流、龍門流、天道八方流、五逢十萬流、鞍馬流、安田流、伊賀流、甲賀流、戸隠流などです。また研究家のいわれる七十五流説、百三流説、わからない説などがあります。よく昔大道で、人を集めて、何々流忍術の極意だなどといって、見世物を出していたのがありました。たとえば、刀の刃渡り、または刃で、手の上にのせた大根などを切ってみせる。一見驚きますが、これは当たり前なことなのです。刀というものは、引かなければ、切れないのです。垂直に叩いたって切れません。もっともこれは刀だからできるので、横磨の小刀、庖丁、剃刀類でやったら大変です。どんな名人でも、人間は細胞の集りですよ。小刀や庖丁などより、組織が弱くできていますから、みごとザックリと斬り落してしまいます。これは、法術というものです。いわば種子のない奇術のようなものです。もちろん、はじめは、ちょっと勇気がいるでしょう。こういう奇術もありましたね。一枚の板の上に無数の釘を打ちつける。「さあお立ちあい、この上にも痛くないよ。足の裏にも決してささらないよ」という。事実その上につ

でも、傷一つつかないのです。また、ガラスの破片を一杯積み重ねて、その中へ裸でころがる。それでも傷一つつかないのです。これもそうなる理屈なのです。力学的にいうと、なんのことはないのですね。単位面積に働く圧力の強さというのですか？ いうなれば、おなじ重量のものでも、その相ふれる面積が広ければ広だけ、圧力の強さも弱くなるのです。ですから、できるだけ無数の釘を打ちつけ、凸凹のないようにすること。ガラスの破片なら沢山集めて山として、その上にころがればよいのです。そうすれば、傷一つしないで、みごとな演技ができるのですね。こうしたことは、法術の分野で、忍術ではありません。

テレパシーも応用して

森川 忍術の発生についてですが、古来いろいろなことがいわれてきましたが、真実は、どんな風にして発達して行ったのでしょうか。

初見 やはり戦乱の中から生れてきたのですが、勝者の中から生れず、敗者の落人から生れたというところに特殊性があると思います。たとえば、藤原氏の落人や、源平の落武者、さらに南北朝の落武者などが、追究の手を逃れて、山奥へ落ちのびて、姿をひそめる。そして、その土地の地侍として、土着して行く。しかし、やはり権力者の搜索は、徹底的で草の根も分けて、さがすきびしさだ。幕府軍の人馬の騒音に脅かされて、地侍たちもそれに対抗する必要が生じてくる。しかし、武器は自由に手に入らない。そこで骨指術だの、骨法だの素手の武道も発生したのです。八法秘剣の術というのも、ここから生れた。これについては、次のような伝説があります。「高麗宗の時代、皇祐元年契丹夏、仁宗の軍と戦って敗れた四江の異勾將軍が、伊勢に上陸、伊賀の岩窟に亡命した。この異勾將軍は、飛鳥隠形の術の名人であった。」このような独特の武技を、地侍たちは、研究練磨、工夫する一方、忍具の発明、火術の伝来とともに、いち早く、これをとり入れなどしたのですね。また支那の書物が入ってくるとともに、火遁、木道、土遁、金遁、水遁などの自然の利をとり入れた忍術という独特の武術を系統だてて、あみだして行ったのです。ですから、忍術を一口で、逃げる術などという人もあるくらいです。忍術とは、本来残酷なものではない。できるなら相手も傷つけずに、逃げる、隠れるための術なのです。そのためには、また自分にうんと実力をつけなければならない。相手にどのような剣士、豪勇が現れようとも、これから逃げ切るためには、相手を凌ぐ余裕がなければなりません。それには、相手の習う武術、剣でも、槍でも、体術でも、あらゆるものを一通り、それもかなり高度のところまで、吸収して身につけていなければならないのです。

森川 大変な心がまえですね。戸隠流の開祖はだれなのですか？

初見 伝書には戸隠大助と書かれており、その言葉に万変不驚というのがある。あらゆる変化にあっても驚かす動かぬ心を養う。敵の白刃の前に立っても、その不動心さえあれば、相手の動きが自然に見え、隙をとらえても、難を免れることができるということを行ったのです。

森川 忍術は、クジを切ったり、印を結んだりしますね。あれはどういう意味です。

初見 精神統一といいますか、宗教哲学的な深い意味も含まれますが、念力というのですか、武術のひらめき以前に、心で見抜き、心で制する。その訓練もやって、心体を支配し、勝つ、難をさけることもできるのです。

森川 ほう。そいつは興味がある。しかし現代は、心理学の実験が、発達しましたから、これも決して荒唐無稽のものでないということは、分りますね。外国などの心靈学でも、その霊能者になるために、そういう訓練をやるようですね。たとえば、念力を集中して、前に立っている人を自分の方に向かせたり、右の手を上げさせたり、自由自在にするのですね。視線を集中すると、相手がふっと顔をあげることがある。あれなどもテレパシーの一種ではないかといっています。

初見 忍者には、絶対それが必要なのです。人心看破術で、相手の動きを先によまなければなりませんから.....。

森川 鼠を盛んに“忍びの者”で、百地三太夫が動かしていましたね。あれもそのテレパシーの応用でしょうか。

初見 そうです。鼠や小動物を自分の意のままに動かす。こうしたことができなくては忍者の使命は果せません。また、遠当ての術といって、かげの気合で相手を倒すこともあります。忍者八門といって、その一番に忍者の気合をおいているのもそのためです。あとは、骨法、体術、忍法の剣、槍、手裏剣、火術、遊芸、教門となっています。

森川 遊芸、教門というのは？

初見 芸人に化けたり、僧に変装したりしなければならぬことも生じます。そのためには、あらゆるものに通じていなければならないわけです。

森川 要するに人間として可能な限り、あらゆる武道遊芸学問知識を吸収していなければ、忍者の用にかなわないということですね。考えるだけでも大変な仕事ですね。医学の知識についても、かなり深くなければならぬ。逆に敵に毒をのまされたような時にする秘訣もあるわけですね。

初見 何もかも公開することはできませんが、卵の白味二十個を飲ませるのは、強い毒戻しになりますよ。

骨法と忍法

森川 最後に骨法についておうかがいしたいのですが.....。これは、空手と発生そのものから違うと思うのですが。

初見 違いますね、骨法は、骨指術から出たものです。指を岩の上で何年もきたえるものですから、まるで猛獣の爪のようになるのですよ。

森川 私も、骨法を主体にした小説を書いたことがあります。主人公は、紀伊頼宣に仕えた佐々木五郎右衛門で、石を膝におき小指で、これを割った。彼がさわっただけで、人が倒れ、骨が砕けたといわれる凄じい人物でした。それと田宮流居合抜刀術との対決を描いたものです。ところが剣豪作家もみな骨法を知らない。一流の武道家も、

骨法を知らないので、「ほう。そういう武道があったのか」と、方々から大変関心をよせられたことがあります。

初見 佐々木五郎右衛門は、私の骨法の系図にも入っています。空手とは、根本的に違います。力の使い方が違うのですよ。そのために、空手以上の力がある。たとえば、手刀にしても、力を入れず、拳を開く力が、そのまま手刀となって、相手を打つ。開いて打つのですから軽く打つようで、相手の骨の髄までひびいて、相手の骨を砕くのですね。

森川 奥さんは、テレビのアナウンサーだったそうですが、御主人のそうした特殊な武道を知っていて、御一しょになったのですか？

初見 そうです。大変理解があります。いまでは、教えてくれなどといって、毎日少しずつ手ほどきしています。もっともあまり強くなられたり、毒薬や、火遁の術、吹き矢、手裏剣などを教えると危険ですから、ぼつぼつ。(笑声)

八法秘剣

戸隠流忍法系図

初代戸隠大助—二代志摩小三郎源兼定—三代戸隠五郎—四代戸隠小三—太五代甲賀鬼三太—六代金子友春—七代戸隠龍法—八代戸隠岳雲—九代木戸呼石—十代伊賀天龍—十一代上野利平—十二代上野千里—十三代上野万三郎—十四代飯塚三郎—十五代沢田五郎—十六代大猿一平—十七代木又八郎—十八代片岡平左衛門—十九代森字源太—二十代戸田五兵衛—二十一代神戸青雲—二十二代百地幸兵衛—二十三代戸張典善—二十四代戸田盛抑信綱—二十五代戸田不動信近—二十六代戸田観五郎信安—二十七代戸田英三郎信正—二十八代戸田新兵衛正近—二十九代戸田新五郎正良—三十代戸田大五郎近秀—三十一代戸田大三郎近繁—三十二代戸田真龍軒正光—三十三代高松翊翁—三十四代初見良昭(現当主)

森川哲一郎さんのあとがきの一部を参考までに

剣豪の小説をいろいろ書く人はいる。

また過去の武道の史料、系図を辞典のようにまとめる人もいる。しかし、武道の本質を正確に把握する人は少い。

本書は、それに対する解答を、作家としての自らの眼と足で、探求し、追究したものである。

私は、その結果、自分の人生哲学の上にプラスし、処生観を充実させるに役立つ多くのものを発見した。

そして、知ったことは、安易な剣豪小説の中に、武道はなかったということである。
武道は、むしろ日本人自身の優れた特質であり、優れた個性の具象化である。
それは、日本人自身が、生き、悩み、争い、そして死んで行った長い歴史の過程の中において自ら、人生の矛盾と対決し、生存競争の醜さと争い、生死の悩みを克服しようとする苦闘のはてに、その体と心で、原理を体得することに成功した哲学であり、宗教でもある。剣をこのように哲学化した民族も他にないし、闘争の技を宗教化した民衆もいない。これは、明らかに日本人のみのもつ稀有と云ってよい個性であり、他に類型のない特質である。
たとえば野球の中に生死超脱の悟りがあるであろうか？.....

以下は1995年8月から12月まで野田ジャーナルに掲載された宗家のコラムを「山脈」用にまとめたものです。

1. 黒い山の麓にある泉

ツーソン。インディアンはこの地をさして“黒い山の麓にある泉”と呼んでいる。ツーソンからゲイツ峠を通過して、そうそう、この峠では昔インディアンが待伏せしていたという。見晴らしもよく、シャボテンが乱立している。このシャボテンを一本切ると五百ドルの罰金が課せられるという。実際の話、大シャボテンに向かって銃を乱射した者がいたのだそうだ。すると、大シャボテンが銃を乱射した者にアタック。シャボテンが人を殺したという。土地のひとは、シャボテンの魂が怒ったのだらうと語っていたが本当かな。

インディアン嘘つかない、と竜巻が私を迎える。竜巻が迎えるということは幸運のしるしなのだそうだ。しかし、西部劇の撮影のために作られたオールド・ツーソンは、我々がアリゾナへ着く二週間前に放火され焼失していた。私のセミナーが始まった。そして三日間、天空にはインディアンが最も尊ぶという聖なる輪が描き続けられていた。これは太陽の囲りに丸く大きく円を描く虹現象だともいう。完成を表わす天の答えだともいう。その天示(テゾ)なのだろうか。私の誕生日には、レーガン元大統領、ブッシュ元大統領、クリントン大統領からのお祝いのお言葉やお写真をいただいていたが、セミナーで大統領からのメッセージをいただけたのは初めてのことでした。「1995年の大会へようこそ。武道というものは.....人間の精神にチャレンジを与えます.....一貫してきた人々が手を結んで.....熱心さと技能を尊敬しています.....イベントが大成功になることを望んでいます。ビル・クリントン」

2. 外国悟

1962年3月11日、NHK「日曜テレビクラブ」という番組に出演する。映像の岩男君「初見先生おはよう。先生は本当に猿飛佐助みたいな忍術使いなの？」初見さん「ええ忍者というの特種な人間のように考えられていますが、ふだんは普通の人と変わらないんですよ」14分30秒経過.....おねえさん(宇田川清江アナウンサー)「今日は面白い忍術を、科学的に解剖してみました。」

以上は当時の台本そのままである。現代人の常識は、科学で分析した答えが正しいという暗示に化かされている。以来三十三年。くだらぬマスコミの問いに何千回、私は忍術は武道であり、人間的なものであると語り通したことであろう。しかし、マスコミ関係の常識

人には日本語も通じなかったようである。

1995年6月24日、NHKの生の国際放送に出演する。TVでなくラジオ放送である。耳で視せる、忍者にとっては恰好の番組である。「巻物を口にくわえて、指で印を切ってドロロン。忍者といえば大抵の人のイメージがこんなもの。ところが海外では日本人のそれとはかなり違っている。海外では武道として忍法が広がっているという。「忍法は武道だ!!」マスコミにのって三十五年、忍法は武道だぞと世界中の私の弟子たちが日本人に教えたようである。この番組に舟木一夫さんも出演した。アナウンサーが問う。「舟木さん、忍法をご存知ですか?」「僕はね、漢法をやったことはあるけど、忍法はやったことがないな.....」外国語に弱い日本人、もう少し外国語を勉強すれば忍法が武道だということがわかるでしょうね.....

3. 忍びの者

'60年代前半、日本映画は全体として下降線をたどり、客入りが30%の減少を見せ始めた。こんな時、映画監督の山本薩夫先生から電話があった。「『忍びの者』という映画を撮ることになったのですが、ご協力いただけませんか.....」早速私は京都へ飛んだ。後年山本監督が生涯に一冊しか出していないという「私の映画人生」の中に、その時の様子が書かれている。「千葉県の野田で接骨院を営んでいる戸隠の何代目かの人に会い、実演してみせてもらったりした。この人には撮影のときにも協力してもらっている。また、奈良に住んでいる戸隠の先代（高松先生）という人にも会った。手裏剣をカードで実演してみせてくれたが、この人がやるとカードは水平を切って走った.....」と。私は京都へ何回も足を運んだ。水戸黄門でご存知の西村晃さんは木猿の役だったと思う。影の一刀をお教えした。山本監督が「雷蔵さんにはスターにありがちな横暴なところがない」と評しているように素敵なお方でした。『殺陣師段平』という映画で、新国劇の創始者沢田正二郎に扮した雷蔵さん、常々新劇のようなものをやりたい、とおっしゃっていたから演技にも力がいった。忍びの者の撮影中、手裏剣投げのシーンがある。関係者が撮影のため一生懸命“的”に向かって投げる。しかし刺さらない。苦肉の策で、パチンコを使ってシーンを撮り終えるというエピソードもあった。私が雷蔵さんに忍法を教えに行く時、高松先生が「雷蔵さんは一流の極意に達している人やで。それをよう忘れんようにな!」その一言。今でも私は大切にしている。

4. 忍者千一夜

「風のフジ丸」この動画は、とても贅沢に作られたのです。当時、動画を作るのに、三十分番組を作るのだったら、画を三千枚も使えばというところでしたが、たしか六千枚位使ったという記憶がある。

原作は、白土三平の忍者旋風で、その主人公の名前は小太郎。しかし、この番組のスポンサーが、藤沢薬品ということもあり、風邪薬の風をとり、藤沢薬品のフジをとり、丸薬の丸をとって、風のフジ丸の出現ということになったのである。「懐かしのTVアニメ99

の謎」に次のようなことが書かれてある。「フジ丸世代に思い出深いといえば、忍術千一夜のコーナーも忘れることはできないであろう。現役の忍者、初見良昭先生が、本間千代子の質問に応じて忍術を解説してくれるというもの。本物の忍者が教えてくれる本当の忍術は、本編を凌駕するほど（マジで!）インパクトは強烈だったのである。」千一夜の監督さんは、白川大作さんと田宮さんという方だったと思う。東映さんは、「忍者千一夜は、少年忍者風のフジ丸の巻末につく忍術解説の映画です。これは劇中に出てくる術や道具などを解説し一つの呼びものにしたい」と企画していたのである。これがツアー二十六話の連続ということになった。本間さんとの語り二十六話は日曜日二日間で撮るスピードぶりでした。当時のスタジオのライトは熱かったですね。猛暑、冷房なし、花は二十分で凋む。何回花をいけかえたことやら。撮影も無事に終了。翌日、二十六着もの汗だらけの背広や着物を洗濯屋さんに出したことが、今でもビールの泡の中から見えてくるようだ。

5. ギブ・アンド・リターン

競艇界のドンといわれた笹川良一会長が他界された。アメリカのカーター元大統領が、「笹川さんは、世界の至るところで慈善事業に力を注いでこられ、私はその度に胸を打たれた.....」と弔辞を述べられた。私が、今から十五年前笹川先生とお会いし、意気投合させていただいたことがある。それは帰るだんになって笹川先生がエレベーターまで私を送って下さり、青年のような笑顔で「またいらっしゃい!!」と手を振って下さった残像残映が物語っている。

誰もが、よらば大樹の陰や派閥のレールを探し求め、自分の出世や欲望を満たそうとする。愚かな行為である。大樹には、雷が落ちることもあるし、レールの上を走る機関車も時には脱線する。映画人生になぞらえれば“悲劇のヒーロー”ということになる。

私の尊敬する自根松介先生がこんなことを語られたことがある。「人生、よくギブアンドテイクであると思っていらっしゃる方が多いですが.....」声を大にして「私はギブ・アンド・リターン、それが人生だと思っています。」

6. 青い眼と黒い眼

「洋画ベスト150」によると007（ロシアより愛をこめて）が97位にランクされている。そのボンド・シリーズ、5作目「007は二度死ぬ」の製作のため、一行が私の家を訪ねてきた。その時の様子を新聞の記事から紹介しよう。

「007のプロデューサー、ルイス・R・ブロッコリー氏、監督ルイス・ギルバート氏ら制作担当者7人が四日夕、野田市をおとずれ、初見良昭さん（35）の道場で忍法の手ほどきを受けた。新兵器、珍兵器、アクションの登場がミソとあって、忍者のお知恵拝借となったもの。約2時間にわたって熱心に修業した一行は、色色の極意にふれて大満足。早速忍術の考証を初見さんに依頼した。」

外国との合作映画、そうなると日本人のスタッフやキャストは、どういうわけか舞い上がってしまう。私にいわせれば、パラシュートをつけないスカイダイビングのようなもの

である。青い眼で見る外人、黒い眼で見る日本人、それは青と黒を混合した見にくい作品になるからである。

7. 魅惑の島

夕日が水平線から突然消える。ハワイアンサンセットが常夏の夜に変身する。楽園と呼ばれるハワイも、歴史的には数多くの悲劇を物語る。「オンザビーチ・アット・ワイキキ」のリズムにのって浜辺を歩く。微風がハワイアンバンプの肉肌からふき出す妖水（コスイ）で男をレズってくる。ニューハーフかもしれない。「アソバナイ!」「あっちの女がいいよ」「チキチキバカ」と罵声が吹く。「女房が前を歩ってるんだよ」「ウソ〜」「アラヒサシブリネ!!」初めての旅行者にも恋をかける。

私の十代はハワイアンに狂ったものである。私のスチールギターはレシバをつけた。音階もアンプもV6の手作り。当時の音友高木のブーちゃんはギターを弾いていてくれた。

「魅惑の島の夢旅行」などハワイアンのCDを出しているプレーヤーであり作曲家の山下洋治君もウクレレを弾いていてくれた。

「暇が出来たら二人でハワイへ行こうな」といていた彼も、「忘れちの誓い」のリズムにのってヘブンの星となってしまった。

8. 三途の川

人生って言うものは、三途の川を泳いでいるようなものだと観ることも必要です。三途って何ですか？

「一に猛火に焼かれる火途、地獄道。二に互に相食む血途、畜生道。刀剣、杖などで迫害される餓鬼道。この三道をいうのじゃ。」

万物の霊長と自称する人類、道を作ることが好きですね。政治をやる人や、指導したがる人、困ったものです。そんな時、私は森の小径や鈴懸の道、人生の並木路、カミニートをハミングするのです。これは忍者の呪文（ジュエン）である。

野武士の一団が、葦葦（よしあし善悪とも解く）の繁る道に行く。「おかしら、わっばが溺れてまさあ、助けにゃ!!」「まてえい。よく見るんだっ。あのわっばがな、己の力で、己の命を救える奴だったら俺が育てて子にするわい!!」

三途の川の水をガブガブ飲みながら、わっばは水辺に這いあがった。このわっば、後に鬼童丸と名のる一方の雄となったのである。

私の師匠も、このわっばと同じように稽古を時にふれ、つけて下さったものである。

9. お家芸

1982年、ニューヨークの大地に立たずむ。ニューヨークに永住する示現流剣法宗家、法学博士、環境博士、国連理事、ジャパンイエローページ社長など数多くの肩書きを持つ大谷先生が、笑顔で空港に迎えて下さる。開口一番「アメリカは武道の国ではありません。商

業の国ですので武道家と言うと相手にされません。だから初見先生をドクター・ハツミと紹介します」という。

当時、私のセミナーに参加する者は、土地柄か実戦経験の豊富な猛者ぞろいで、アタック型の強者が多く、例えば、「俺は二頭の牛の首を両腕で両脇にかかえて、ねじり倒せるぞ！俺の腹には、牛の角の刺し傷が七つあるんだ」という者、「ルフトハンザ乗っ取り事件の時、テロリストを殺した」という勇者など。バット、彼等を指導する段、私は牛若丸のような動きで遊んでやる.....と猛者達も童心にかえり、マーシャルプレーに一変する。これぞ、孔子様がいう「遊びを知る者は、人生の至宝にあり」というクリーンなマーシャルアーツのセミナーへと昇華してゆく。日本は団体競争の村であり、アメリカは個人競争のカントリーである。柔道とは限らないが、日本人はお家芸という言葉をよく使う。しかし、この方言を外国から聞くと藁葺き屋根の炉ばたで聞く訛るトーキーに聞こえてくる。

10. 人間の自然で完璧な動き

美しい！天も地も煌めく星雲に包まれたイスラエル・ペングリオン空港に降り立つ。ガデス・コロニック君他、数人の武友が私を迎えてくれる。ガデ君は柔道チャンピオンであり空手の名手。サーカスにもいたという。セキュリティのチーフである。セミナーが始まるとガデ君の格闘技の師匠であるイミリフティンフェルド先生（79歳）も来て下さった。彼はイスラエル建国のための格闘技の基礎を作った英雄で、元はサーカスのスター、ボクシングのチャンピオンでもならしたと聞く。

「人間は、お互いに勉強することが大切であり、自分を過信して知っている、分かっているという人は駄目だ。自分の体と心をコントロールできる人は、何をやっても完成することができる」と長年の実戦歴の世界から力強く語る。私の動きと体術を見たイミ先生、ガデ君に命令する。「初見先生のすべてを学べ」と。また私の体術を見ていたフライデンクライスというイスラエルの整体医学の大家ハバ・シエルハブ女史が語る「初見先生の動きは、フライデンクライスから見た人間の自然で完璧な動きである。」また、「日本の方は仕事をしすぎるのではないか。人間仕事が忙しすぎると魂がなくなります」と。

ヨーロッパの格闘技の技術者にはサーカス出身者が多く、体質が軽妙でバネが強いのが特長だ。

11. 閃災（セザイ）意識

ユダヤ教は学ぶことが大切であり、芸術に似ていて、三歳から勉強を始めるという。国の首脳をガードする友が語る「ガードしながら飛行機のタラップを降りて行く時、カメラマンの激写がある。そんな時、シャッターが射撃音に思えて危険を感じ、反射的に走り出しカメラマンの首ったまをもち上げて、ポイ!!/するという。」なるほど腕力の起重機を使って、写激に対し、機銃器での応戦ということになる。彼は銃を使えば一発で三羽の鳥を射止めたことがあり、早打ちの名人でもある。それなのに「射撃には先生の武道の構えが大変参考になっている」と。彼との会話はいつも楽しい。ドライブの車中「このビルやこの

橋はどの位の爆薬で爆破できる」という。人間は、時には赤子のように壊すことが好きになる。そこで私は「女を爆破するにはどの位の爆薬が必要かな？」と、「女はしめっているから、爆薬をしかけても発火しない」とかえす。そこで私は「お前の大砲で射て!!」と命令する。彼の「愛愛サー」で落ちがつく。彼の特技は、閃災意識である。死線を生命線にかえる奇跡を見せるからである。例えば彼がガードする首脳とある場所にいたとする。彼が不吉を感じ、他の場所に首脳を誘導する、移動前の場所で爆発がある。

12. イスラエルの要人と会して

ハツエリム空軍基地で将軍とお会いする。バレンチノに似た美青年である。妻の鞆子は将軍から、パラシュートで作った、ネックチーフをいただき感激。私はシュミレーターに乗って、ジェット機操縦のフィーリングを味あわせていただく。将軍が語る「飛ぶことよりも、ファイターを養成することを目的として訓練し、勝負勘を重要視し、そのためには毎日の生活が試験だ!!」とベトウィン族のテントに案内される。彼等は砂漠に隠れ住むことにもたけ、犬を自由に使い、視力は5～6、銃の名手で、砂道の術にたけ、砂上に消えた足音を読み、地雷を読むという。ベトウィンがコーヒー豆を碾いてふるまってくれる。ベトウィンはコーヒー豆を砕く時、キネの音でどんな奴が、どんな用事できているか、音信しているのだそうだ。

国会に案内された。シャガールの壁画の前でスポーツ大臣と語る。「日本へ行った時、どこの国でも食卓に交友の旗を立ててくれるのに、日本では旗を立ててくれなかった。今度私が日本へ行ったら、両国の旗を立てて下さるよう伝えて下さい」と...日本では国旗掲揚問題や、靖国神社参拝の物議等があると恥ずかしくて語れない。

イスラエル、ラビン首相に謹んでお悔やみ申し上げます。

13. 百地三太夫

乱世の世、伊賀の地侍、忍者は百地三太夫の百地党と、藤林長門守の一族、藤林党に二分されていた。この二党の頭領は同一人物で、つまり一人で二分されているはずの伊賀を巧みに操る人遁分身の術の使い手。ジキルとハイドのような、人間の二面性を忍法を通して小説化した「忍びの者」村山知義さんの作品である。この忍びの者映画化劇中、百地三太夫を伊藤雄之介さんが熱演している。伊藤さんは、私の師匠高松先生のお宅へ足しげく通い、百地像を高松先生に見て忍法ばかりでなく起居動作にまで演技観察をしている。ここで面白い撮影余話がある。百地砦から藤林砦を忍者走りで馳けるシーンがある。撮影、NG、画にならない、苦肉の策。

小便したい雪隠(便所)馳け込み足でOK!!この映画忍びの者では、百地三太夫が織田信長の伊賀攻めで戦死し、石川五右衛門に、藤林・百地の頭領が同一人物であることを見破られるラストシーンで終わる。百地三太夫についての師伝によると、天間年間の百地三太夫、天正年間二代の百地三太夫があり、天正伊賀の乱の信長の伊賀攻めに対し百地三太夫は三本松に止まり、家来共に「もう信長の攻撃は終わりや!!」と告げたという。予言的中

天正十年六月、信長は本能寺の変に消えたのである。

14. 天の利、地の利、忍耐努力工夫、自分の力

私は武道を教える時、教えることより教えないという方向にウェイトをかけている。道場で稽古の際、私は一つの流れる技を一回だけ弟子に見せ. . . 速「プレイ!!」その早技に弟子は付いてこられず、「わかりません、教えて下さい」と乞う。私は「武道家が教えてくれという一言は、助けてくれという腰抜けの一言と思っている!!」と返す。そして教えず次の稽古に流れる。平和な時の教育は、教え教わることを美德としそれに酔っている人が多い。しかし実践では奇襲につぐ攻撃、教えを乞う暇はない。学ぶ眼も盲目となる。腹や度胸から出る眼力の方が役に立つものである。英国の軍事研究家リデルハートが戦術の確率を調べたものを引用すると、ギリシャ以来の大戦争の中から名戦闘二百八十を参考にしたところ、二百七十四という数値が奇襲奇道邪道という戦法で勝っており、学んだ正攻法で勝った例がわずか六例に過ぎなかったのである。つまり、じっくり学んだものは四十八分の一しか役に立たなかったのである。経済学者にお金持ちは少ないですね。学校に行かなくても、丁稚からたたきあげの財界人、つまり商戦を生き抜いた者は、天の利、地の利、忍耐努力工夫、そして自分の力で学ぶということ。潜在意識が大きかったのですね。

15. 倉田典膳

雨が走り去った - 京の夕暮れ。角兵衛獅子の杉作と新吉が、一日の稼ぎを財布ごと落とし、親方の所へ帰れば殴る蹴るの折檻が待っている。それだけならまだよいがと途方に暮れている二人。折よく通りがかりの武士に問われてわけを話す。武士は金を恵んで立ち去る。鞍馬天狗と杉作少年の出会いはここから始まる。そしてそれからの鞍馬天狗の活劇を、大佛次郎は四十年に渡って書き続けた。映画化された嵐寛寿郎扮する鞍馬天狗も四十本。嵐寛さんは、「四十六本でっせ」と語っていた。嵐寛寿郎さんの立ち廻りの美は流麗でした。刀の捌きは勿論、ピストルを構えた映像から流れる「近藤さん」というエロキューション、そしてにがい顔の瞬間. . . 暗転. . . 倉田典膳!とおゝむこうから声がかかる。女形出身の嵐寛さんの殺陣中の裾さばきの美はフランメンコの熱汗天狗舞の境地を見せる。鞍馬天狗の本名は倉田典膳。一刀流の使い手と小説では紹介されているが、しかし実在のモデルは、私の継承した武系の中に書き残されている。禁裏衛士戸隠流玉心流の免許もち大国出雲守、九鬼神流八方秘剣の使い手、石谷武惣正次である。この二人、お公家さんの影になり、新選組をだしぬき、王政復古のために、日本の夜明けのために、大活躍をしたという.



← 昭和39年1月24日
日本TV圭三ビックプレゼントにて放映
右より市川雷蔵さん、宗家、高橋圭三さん
(3.忍びの者より)

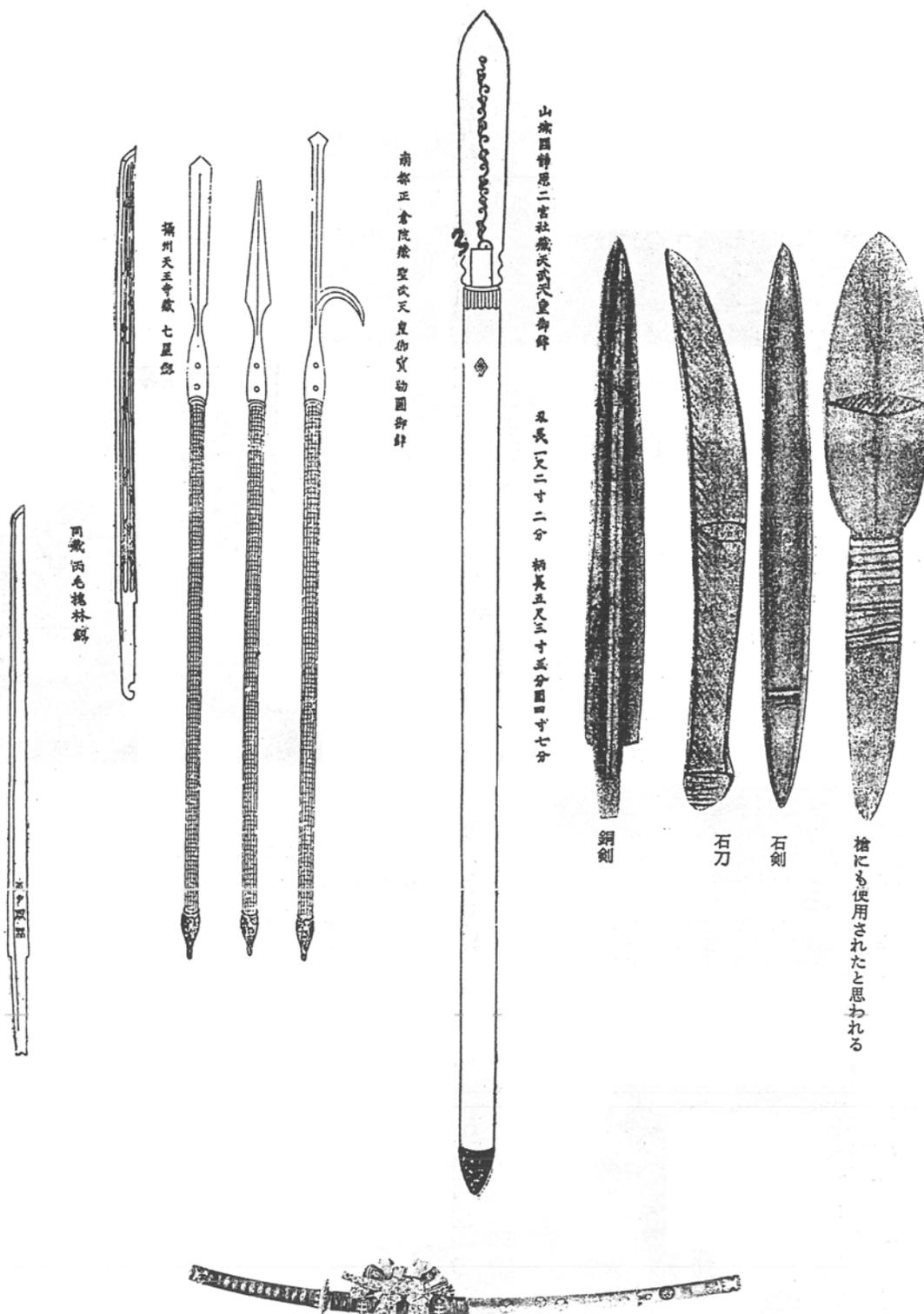
世界は一家 人縁は兄弟

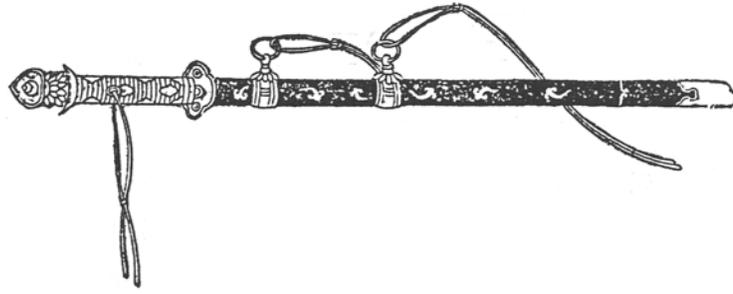


↑ 日本船舶振興会にて
笹川良一氏と宗家
(5.ギブ・アンド・リターンより)

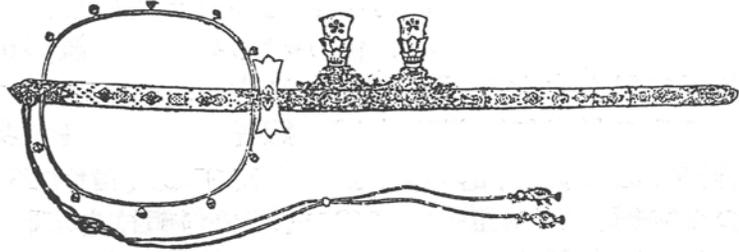
← 007一行の前で忍者の四十八手を披露する
宗家
(6.青い眼と黒い眼より)

武神館道場の平成八年の指導テーマは、剣、太刀、大刀、小刀とする。
以下に古代武器を紹介する。

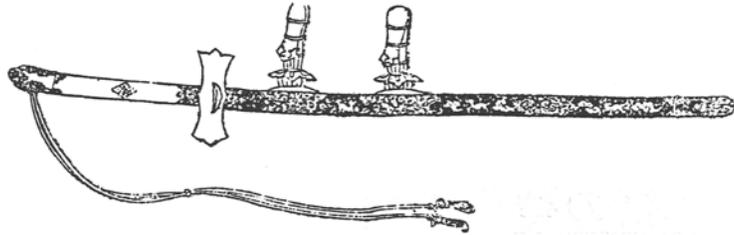




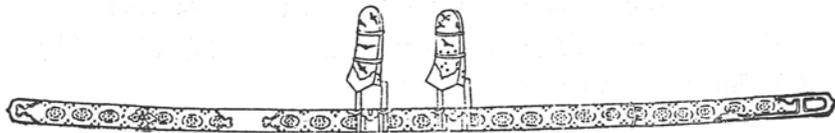
攝州天主寺藏聖德太子倭
太刀



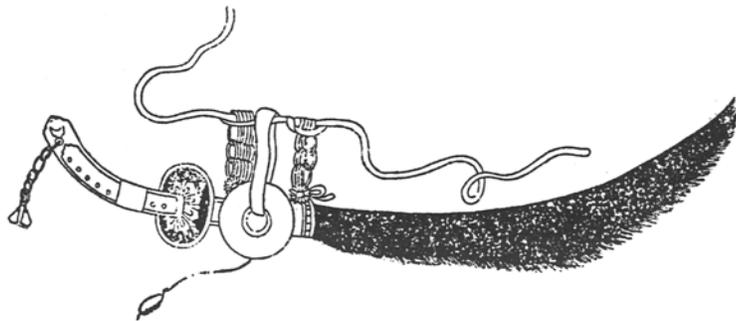
太神宮御寶物圖
玉鏝横刀



太神宮御寶物圖
須我流横刀



太神宮御寶物圖
新作横刀



水戸御家藏
兵庫鎖太刀

<三心の型>

三心の型、この型（カタ）を方（カタ）と解していただこう。
この三心の方、宮本武蔵の五輪書も地水火風空の五法に分類されて示されている。これは一六四三年から四十五年、つまり武蔵が二年で書き上げたものである。高木楊心流の雲龍師も五輪遍でこの法無敵なりと語っている。「闘心は龍や虎の如き、陰闘、陽闘に分類を先づしますのや。これをコテキリヨーダといいます。龍は地に伏し、静かなる事無明丘満の構で敵動ずることにより雲を呼び風を巻き上げ千変万化に虚実天観、虎は伏虎に構える時虎眼猛虎に転じその暴虎風を巻き上げ、餓虎に転ずる時捨身と化し乳虎即虎子を護る構、守心一貫決死の構、強敵と対する時雷雨と稲妻を放つ虎と化し秘術をつくす構、この五光の虎の態技を五輪というておる!!」皆さんが今まで修業していた三心の型の真理を武道体術化した時先づ以上の五輪の構を三心の構として妙技として稽古一変していただきましょう。

三心 武道体術の型

平成八年のテーマは、基本八年、八法の年と解し、また私が諸君に伝授するテーマは、剣・太刀・大刀小刀イコール三心の型として、そのフィーリングの妙技を会得して下さい。

地の型

- ① 始め自然体
- ② 右向けの体征より
- ③ 右手三指突き出すのと右足出すのと同じ。次左手三指出すのと左足出すのと同じ。三指の根元に大指が横に一ぱいの型、引いた左手は拳、拇指立てた拳。
これを三回繰り返す。



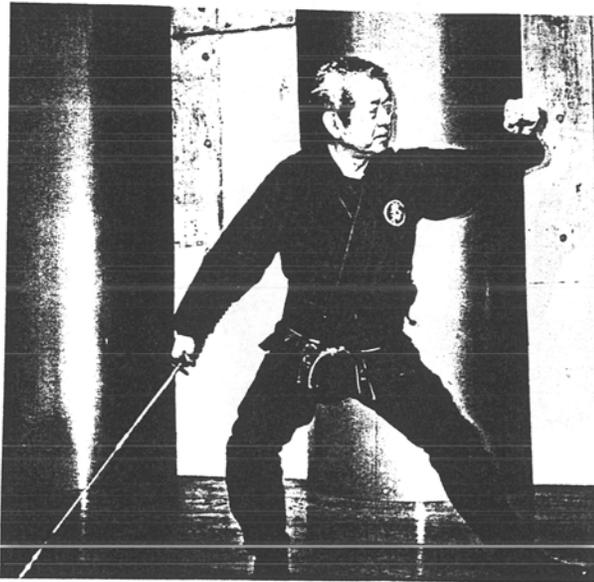
①の構、自然の構



③これは右突き、左手指拇指立てに一変するのは武器を使用する左右一如のランゲージである

水の型

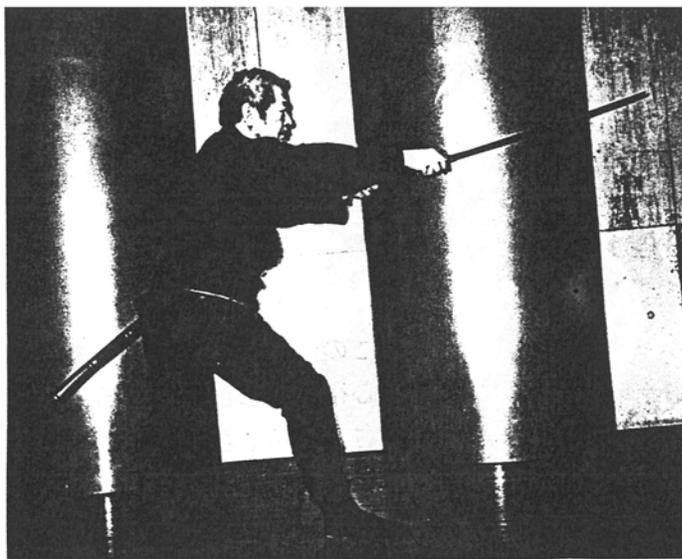
- ① 自然体
 - ② 右足引いて左手左足前方、左手真直ぐに手刀を出し、右手は自分の右側帯の辺に拇指立て左拳の型
 - ③ 受
 - ④ 手刀打ち（手掌上向け）
 - ⑤ 左技
- これを三回繰り返す。



- ②武道体術に転ずる時
- ③右手の武器、次に振動を了知する勘体を要す
- ④の刀の打法を打し（ダシ）打ち（ウチ）型に秘すべきである

火の型

- ① 自然体
 - ② 右足引いて左手左足前方、左手真直ぐに手刀出し、右手は自分の右側帯の辺に拇指立てた拳の型
 - ③ 受け身
 - ④ 右手手刀打ち（手掌下向け）
 - ⑤ 左技
- これを三回繰り返す。



刀法の真理の道程から刀の返し方により秘転剣押し切り動機流派に一閃する剣法を会得すること

風の型

- ① 自然体
 - ② 構え
 - ③ 下段受け
 - ④ 拇指立てた拳にて右突き型
 - ⑤ 左枝
- これを三回繰り返す。



この時左手無刀真剣白刃止めの
心得とする
右手の剣、八相下段何にてもよ
し
刀身変流の構型を会得すること
剣右突き風の流れとす

空の型

- ① 自然体
 - ② 構え
 - ③ 下段受け
 - ④ 右上手に上げると右足腰落し高くける
 - ⑤ 左技
- これを三回繰り返す。



空は結びを示すものであり、武器と心と結び、自然無窮（ムキウ）と結秘（ムスビ）極意を得んとするものなり

最後にもう一言.....

時代の変遷、これは進歩しているとか悪い時代だとか、一般的に普通に考える見る人が多いのですが、これは人間の本質をよく知れば、何が危険かということが私ごとの欲望で人生を失うことであるということがわかるはずである。自分の欲望の変遷によって人生が一変するということである。虎倒流の先代、百地三太夫も「忍術または武道は私欲のために行うべきものにあらず、国家のため、主君のために、または一身自分自身また良民が危難に合いこの危険な状態から逃れられない時、忍んで機を見、未危、やもうえない事気（シキ）に行うに他ならないということである。そして、もし自分の邪悪な欲望から忍術・武道を悪用する時、必ず明るい人生を失うということである。この教えは忍術・武道だけにあらず、普通の生活にあっても心すべきであるという共通性につながるものであるという教えである。師は変遷、心変わりも同一視していらっしゃり、ああ、あの人も心変りしたのやなあと自分でその人から忍法を使って消えられたものです。

司^シ新^ニ以^テ私^ニ欲^スの^為に^行ふ^をま
 首^ニ有^スす^國家^の為^のに^行ふ^を為^す
 又^ハ身^の危^難逃^る所^無き
 に^及ん^ども^危得^ずし^し行^うま^也
 若^シ死^私欲^の後^にに^好ん^どえ^を行^ふ
 う^に及^ぶま^祖の^緒実^めて^國家^の
 何^レ世^流席^をも^老倒^流骨^を流^す球^を
 祖^百地^三太^夫再^再

平成8年度 1996 **1996年**
 武神館東京武道館道場予定表

A; 入口側半面
 二; 第二道場 大; 大道場

月	日									
1	5	9 _A	12 _二	19 _A	23 _A	26	30			
	FRI	TUE	FRI	FRI	TUE	FRI	TUE			
2	2	6	9	16	20	23	27 _A			
	FRI	TUE	FRI	FRI	TUE	FRI	TUE			
3	1	8	12 _A	15	19	22 _二	26	29 _二		
	FRI	FRI	TUE	FRI	TUE	FRI	TUE	FRI		
4	2	5 _二	9 _A	12	16	19	23 _A	26	30	
	TUE	FRI	TUE	FRI	TUE	FRI	TUE	FRI	TUE	
5	3 _二	10	14 _A	17	21	24	28 _A	31		
	FRI	FRI	TUE	FRI	TUE	FRI	TUE	FRI		
6	7	11 _A	14 _A	18	21 _A	25 _A	28 _A			
	FRI	TUE	FRI	TUE	FRI	TUE	FRI			

場所 東京武道館 TOKYO BUDOKAN

TEL (03) 5697-2111

交通 地下鉄 千代田線「綾瀬」下車徒歩5分

CHIYODA LINE 「AYASE」(SUBWAY)

武神館本部道場事務所 宗家 初見良昭

TEL (0471) 22-2020 FAX (0471) 23-6227

自主けいこ 17:00~19:00 けいこ 19:00~20:30

駐車券の発行枚数に制限がありますので、自動車
 で来場されども館内に駐車できません。

編 集 部

〒278 千葉県野田市野田636 TEL: 0471(22)2020

武神館本部道場事務局

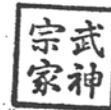
相談役 林 靖之
編集長 岩田喜雄

武神館伝書 「山脈」 第十号

平成八年三月十五日発行

発行者 初見 良昭

発行所 武神館道場



千葉県野田市野田636 〒278

TEL 0471(22)2020

FAX 0471(23)6227

* 許可なくして複製・転載を禁ず

「山脈」編集部からのお知らせとお願い

海外にて「山脈」日本語版（オリジナル）の講読をご希望の皆様へ
「山脈」一冊につき¥2,000.-（送料込み）にて送付させていただきます。本部までお申込みください。

編集部では皆様の投稿をお待ちしております。ただし、原稿は日本語に翻訳したものに限りさせていただきます。また、できればワープロ打ちした原稿でご提出お願いいたします。

